

乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンの 需給状況等について

麻しんの対策に使用するワクチン等について

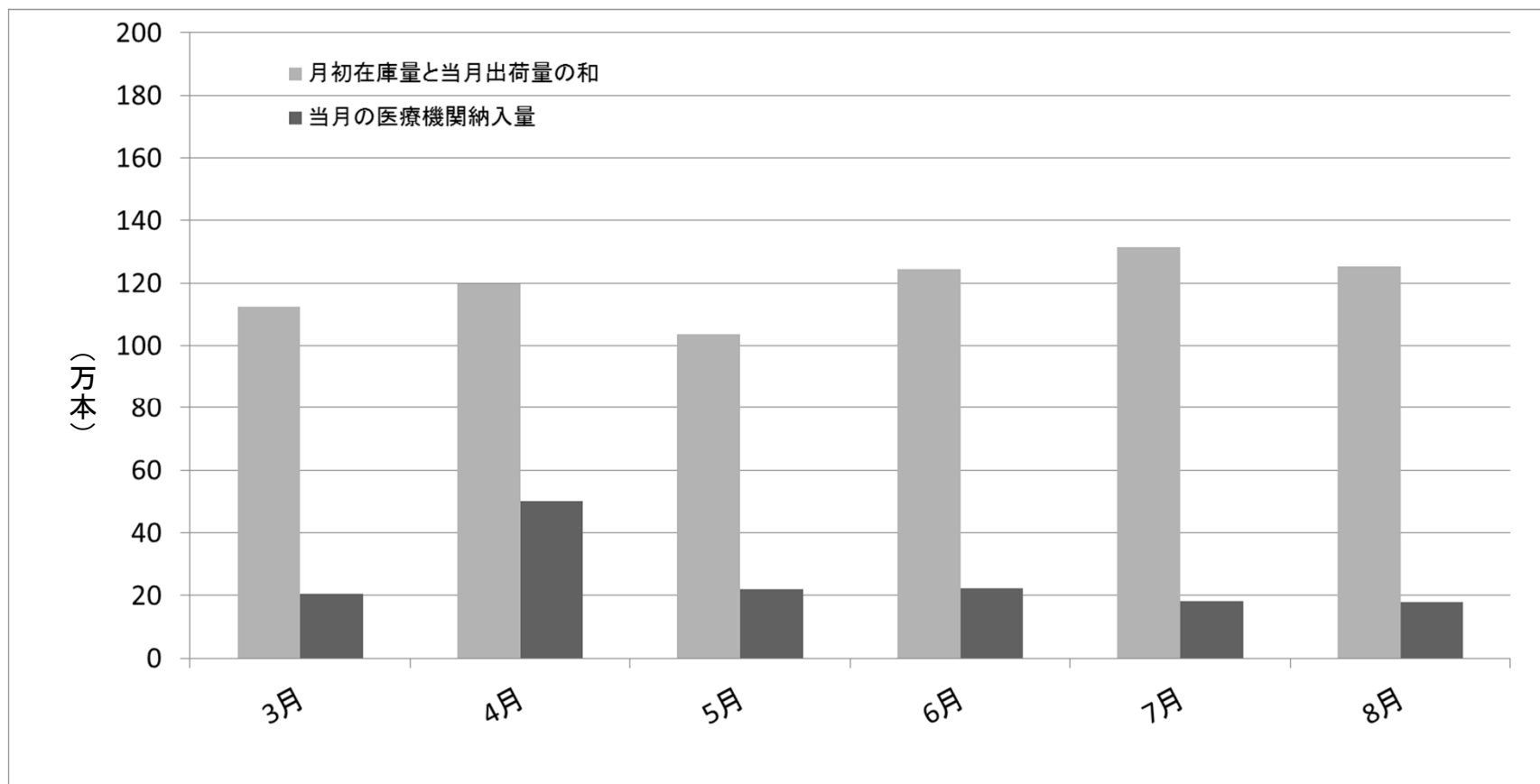
【麻しんに関する特定感染症予防指針】(平成19年厚生労働省告示第442号、関連部分抜粋)

- 感染力が非常に強い麻しんの対策として、最も有効なのは、その発生の予防である。
- 麻しんの接種に用いるワクチンは、風しん対策の観点も考慮し、原則として、麻しん風しん混合ワクチンとするものとする。

【MRワクチン(乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン)の需給状況見込み】

- 現時点において、MRワクチンの全国的な不足は生じない見込み (詳細次頁参照)

乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンの需給実績及び見込み (平成30年3月～平成30年8月)



(注)

- 上図は、現在流通している全社製品分を合算した状況であり、平成30年3月及び4月分は実績、その他の月分は見込みの状況を示す。
- 「月初在庫量」とは、当月初め(前月末)に、流通過程上に存在すると考えられる在庫量(出荷判定済の製品であって、まだ医療機関に納入されていない製品の在庫量)をいい、医療機関に納入済で未接種分の在庫(医療機関における在庫)は含まない。
- 「当月出荷量」とは、製造販売業者において当月中に新たに出荷判定がなされ、流通可能となる製品量をいう。

MRワクチンの需給状況に関する情報（平成30年5月18日現在）

【医療機関納入量実績】

●平成29年4月	約23万本
●平成30年4月	約50万本
●平成29年5月	約22万本
●平成30年5月1日～5月18日	約46万本

【医療機関納入量実績対前年比%】

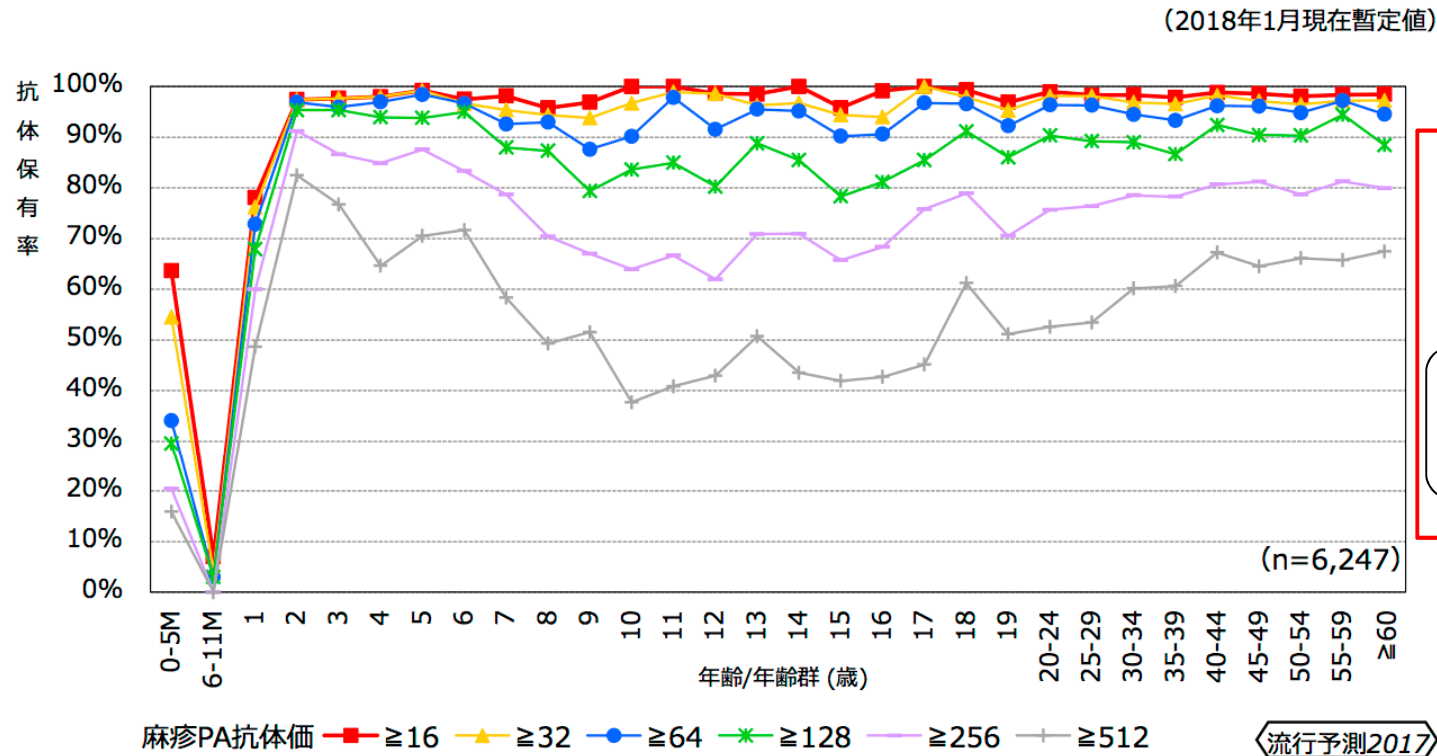
●30年4月／29年4月	約217%
●30年5月1日～5月18日／29年5月	約210%

【流通過程上に存在すると考えられる在庫量】

●平成30年5月18日時点	約46万本
---------------	-------

※5月19日～31日の間にも、追加のワクチン供給がなされる見込み。

麻疹抗体保有状況（2017年度感染症流行予測調査より）



2歳以上では、どの年齢においても、95%以上が陽性抗体価を満たしている。

（感染予防抗体価でも、世代ごとの大きな差異はみられない。）

図. 年齢/年齢群別の麻疹PA抗体保有状況 – 2017年度感染症流行予測調査より

